



SDGs AICHI EXPOに出展しました！

10月3日（金）、4日（土）の2日間、Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で開催されたSDGs AICHI EXPO～SDGs子ども・ユースフェア～（主催：愛知県他）に出展しました。

ブースでは、経済学部の濱口泰代准教授ゼミが地域のNPO法人と連携して制作した伝統的な熱田大山（あつたおおやま）の木造模型の展示や、遊びながら名古屋・熱田の歴史や文化を学べる「名古屋あつたカルタ」を来場者と一緒に行い、ゼミでの活動を紹介しました。また、SDGs推進サークル「サステナカレッジ」の学生は、名古屋市環境局に協力いただき、自分たちで考案した「ごみを減らす大切さを考える」ワークショップを行いました。

2日間を通じて、ご来場された多くの方々に本学の様々なSDGs活動を知っていただく機会となりました。また、多くの有益なご意見・ご指摘をいただいたほか、多くの企業や大学、自治体等と新たな繋がりを築くことができました。



ブース出展の様子（濱口ゼミ）



ワークショップの様子（サステナカレッジ）

NCUサステナビリティ・プレゼンアワード2025を開催しました！

11月2日（日）に桜山キャンパスにて、【NCUサステナビリティ・プレゼンアワードー若者が考える持続可能な社会ー】を開催しました。今年度は「働く」をテーマに、地域の高校生・大学生9チームが持続可能な社会実現のために自分たちに何ができるか、「問題提起」と「解決・改善策」を提案するプレゼンテーションを競うとともにワークショップを行いました。プレゼンテーションでは、男性育児休暇やフェアトレードといった「労働」、防災への「働きかけ方」、さらに「働く」の語源である「傍を楽にする」から着想した「思いやり行動」など、多様な視点からの「働く」に関する発表があり、学生たちの柔軟な発想力が印象的でした。

参加者をランダムに組分けして行ったワークショップでは、持続可能な社会の実現に向けて自分にできることを議論し、理解を深める時間となりました。

また、ご支援いただいた企業等のサポーターの方々との交流会も行いました。

今回のイベントを通じて、持続可能な社会づくりは他人ごとではなく、自分ごととして相手の立場に立ち、行動をしていくことが重要であることを改めて認識する良い機会となりました。



参加者の集合写真

SDGsセンターシンポジウムを開催します！

2026年1月22日（木）に、SDGsセンターシンポジウムを開催します。

今年で4回目となる本センター主催シンポジウムでは、「プラネタリー・ヘルス」という「人間の健康」が気候や生物多様性、水環境など「健全な地球の環境」の上に成り立っているという新しい概念をテーマに、講演やディスカッションを通して、直面する地球規模の課題へどう向き合うかを考えます。

【概要】

日時：2026年1月22日（木）午後4時30分から午後6時30分

会場：名古屋市立大学桜山キャンパス さくら講堂

内容：①基調講演：渡辺知保（わたなべちはほ）教授

（長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 プラネタリー・ヘルス学環）

②パネルディスカッション

申込：名古屋市電子申請サービスまたはメール、FAX

△申込フォームは
こちらから



NCU SDGs コラム -名市大の未来を創る力- その研究活動もSDGs！未来に貢献してます！

Vol.20より新たな企画としてスタートした研究活動とSDGsのつながりを紹介する第4弾として看護学研究科の久保田正和先生の研究や取り組みをご紹介します！



生活の質を上げる看護研究 ～誰もが暮らしやすい地域を目指して～

学部では看護学を専攻していました。大学院では医学研究科に所属し、生理学や分子生物学的手法を用いた研究を行ってきました。これらの経験を活かし、大学の教員になってからは、「看護の力」を客観的なデータを用いて科学的に示すことを目指し、日々看護の奥深さや面白さを感じています。現在は認知症看護における適切な関わり方を脳血流量値で示す研究に取り組んでいます。また、看護地域連携センター長として、地域の保健医療福祉に貢献することを目指しています。地域を支える医療や福祉の専門職の方々から刺激をもらう毎日です。



久保田先生／看護学研究科教授・看護地域連携センター長

久保田先生の研究をご紹介！／

fNIRSを用いた

認知症の方への看護学的アプローチの検証

fNIRS（ニルス：近赤外分光法）という脳血流量を測定する装置を使用し、看護師の声かけや関わりの際に患者さんの脳血流量がどのように変化するのかを測定し、**ケアの効果を数値として可視化すること**を行っています。

Point

声かけなどの看護ケアは、効果を客観的な指標で示すことが難しく、どうしても抽象的になります。脳の反応を数値として捉えることで、これまで見えにくかった「良い関わり方」を評価できる点がこの研究の大きな特徴です。

数値化することで…

看護職の方が認知症の患者さんとどのように関わればよいかのヒントとなり、患者さんの**「生活の質」をより良くするケア**へつながることが期待されています。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

認知症ケアの充実は、超高齢社会を迎える地域の健康・福祉の質の向上につながり、SDG3やSDG17などにも関わる重要なテーマの一つです。久保田先生のご研究は、今まで客観的な評価の難しかった「ケアの効果」「看護の力」を科学的に「見える化」する先進的な取り組みで、患者さんへの効果的な関わり方を実践するためのヒントとなる重要な研究です。また、看護地域連携センターは教育・研究・実践が一体となった地域連携拠点であり、今後も誰もが安心して暮らせる社会づくりに大きく貢献していくことが期待されています。

◆看護地域連携センター

看護を通じた地域貢献を推進するため2012年4月に設置され、看護職向けの講演会や研究サポート、市民や保健医療福祉関連職種を対象とした公開講座などを運営し、地域の保健・医療・福祉に貢献することを目指しています。

認知症カフェ

2025年5月よりスタートし、認知症のある方や家族、地域の誰もが気軽に集い、交流できる場として開催しており、専門職による個別相談も行っています。



なごや看護実践セミナー

地域の保健医療職者を対象に、看護研究の推進と実践力向上を目的として開催しています。多様なテーマの学びを通じて、地域により質の高い保健医療サービスを届けることを目指す取り組みです。



お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局 (経営企画部企画課内) Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

